

Title	ラーニング・コモンズにおける授業実践 : 大阪大学 総合図書館の事例
Author(s)	久保山, 健
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/25950
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University




ラーニング・コモンズ における授業実践 ～大阪大学総合図書館の事例～

OSAKA UNIVERSITY
Live Locally, Grow Globally

久保山 健 (KUBOYAMA Takeshi)
大阪大学附属図書館 利用支援課 (サービス企画主担当)
<October 26, 2012>

第98回 全国図書館大会 島根大会 第2分科会 大学・短大・高専図書館
学習・教育のハブを目指して:教育と連携した大学・短大・高専図書館のサービスをデザインする
会場: くにびきメッセ

2012.10.24.版



(1) はじめに

OSAKA UNIVERSITY
Live Locally, Grow Globally

■ 今日の内容

- (1) はじめに
- (2) ラーニング・コモンズについて
- (3) 授業等での利用
利用ルールの整備、利用実績、図書館の場を選ぶ理由、実務的な対応、図書館以外の施設
- (4) 課題
- (5) 施設利用を超えた教育支援へ
- (6) まとめ



(1) はじめに



■ 経歴

- 2005.6～の約6年間は、情報推進部 情報基盤課
- 2011.4～ 現部署
- 学習支援企画、広報等を担当

3



(2) ラーニング・コモンズについて



◆ 背景(1) ITツールの一般化

IT機器、Web上の情報

* 学生用のPCが「教育用」だけでなく、「情報の入手・整理・発信」という性格を強めている?

◆ 背景(2) 学習観の変化

4



◆ 要素

(1) 物理的資源

: PC, IT機器、場所、従来型図書館

(2) デジタル資源: Web、オンラインツール

(3) 人的資源 : 図書館員、IT技術者

(*) リサーチ、IT、ライティングの支援

(4) 協働できる環境

+ 学習理論の転換

(参考文献)

(*1) 永田治樹, 大学図書館における新しい「場」: インフォメーション・コモンスとラーニング・コモンス. 名古屋大学附属図書館研究年報. No.7. 2008.

(*2) 永田治樹, 図書館とインフォメーション・コモンス: 情報社会における共有資源. 情報管理. Vol.53, no.7. 2010.

7



◆ 海外事例

○ 2008年2月に訪問

○ Queen's University (Ontario, CAN)

Joseph S. Stauffer Library

○ University of Guelph (Ontario, CAN),

McLaughlin Library

8



9



◆ 総合図書館ラーニング・commonsの概要

大阪大学附属図書館の構成

3地区（豊中・吹田・箕面）

○経緯

- ・ “B棟”の耐震改修計画がきっかけ
- ・ 2008年度 工事
- ・ 2009.6. オープン

○コンセプト

Reading から Learning

Teaching から Learning

11



13

人的サービス、講習会など

- Teaching Assistant : 学習相談、講習など
- 図書館スタッフ : 論文の探し方講習など
- 教員と図書館スタッフ : レポート講座、論文の書き方・読み方、話す基本技術



15

11月オープン予定 「グローバル・コモンズ」

- 多言語多文化理解のための
共同学習スペース



16



(3) 授業等での利用



(3.1) 利用ルールの整備


「ラーニング・コモンズ授業等使用要項」

- ・ 使用範囲は幅広く


「本学の教職員等により行われる、学術研究及び教育を目的とした研修等」や、

「その他学術研究及び教育を目的とした行事等で、…副館長が適当と認めるもの」

17



(3.2) 利用実績



■ 2010年度：32回

- ・ 教員H 15 (半期の授業)
- ・ 教員H 15 (半期の授業)
- ・ 教員N 1 (授業の内1回)
- ・ 教員K 1 (授業の最終報告会)

■ 2011年度：17回

- ・ 教員H 15 (半期の授業)
- ・ 教員N 1 (授業の内1回)
- ・ インタビューの撮影 1

18

(3.2) 利用実績

- 2012年度：28回（10月19日申込まで）
 - ・ 教員H 15（半期の授業）
 - ・ 教員S 4（授業の内2回×2クラス）
 - ・ 教員S 3（授業の内3回×1集中講義）
 - ・ 教員S 1（授業の内1回×1クラス）
 - ・ 教員O 3（授業の内3回）
 - ・ 教員N 1（授業の内1回×1クラス）
 - ・ ビブリオバトル 1

初回利用の教員、個別利用の増加が見られる

19



(3.3) ラーニング・コモンズを選ぶ理由

■ アンケート

- ・ 2012.10月上旬にメールにて実施
- ・ 回答：教員3名、学生1名
- ・ 目的：教育学習支援の場所として、どのよう
に見られているかの把握。
現状のブラッシュアップ

21

(3.3) ラーニング・コモンズを選ぶ理由

	N	S	H	計
グループ学習の場として利用	3	3	3	9
PCの利用	3	2	2	7
無線LANの利用	0	2	1	3
本探し	3	3	3	9
図書館の活用法を学ぶ	3	3	3	9

3：とても当てはまる 2：概ね当てはまる 1：少し当てはまる
0：当てはまらない

(*）学生の回答は「人が集まりやすい場所」

22



(3.3) ラーニング・コモンズを選ぶ理由

■ 自由記述

「15名の学生全員が一度に一緒にPCが利用できれば理想でした。2名に1台…」

「貸し出しPC (Windows) が不足…」

■ まとめ

- ・ 書籍やデータベース、図書館の使い方を教えやすい
- ・ PCがもっとあるとよい。

23



(3.4) 実務的な対応

- (1) 利用問合せや申請の対応
- (2) 場所や機器の確保、予約
- (3) 図書館案内、調べ方の説明のサポート

24

(3.5) 図書館以外の施設

- 「スチューデント・コモンズ」の存在
 - ・ 2009年11月、大学教育実践センター（現在は全学教育推進機構）に設置
 - ・ 36～108席の4教室、カフェテリア
 - ・ 授業の他、研究会やワークショップなど、学生、教職員の交流の場としても使用
- ◆ ラーニング・コモンズも教育支援施設の一つ

25

(3.5) 図書館以外の施設



(*)各写真は、スチューデント・コモンズの説明資料から引用
http://www.celas.osaka-u.ac.jp/s_c/files/sc-prof.pdf

26



(4) 課題


(1) 手続きの簡素化

- 利用者側、提供側ともに繁雑にならないように
- グローバル・コモンズ開設に伴い規程の一本化。許可書は廃止したが…

(2) 休館日

- 当館は試験期を除いて、月末に休館。
- 授業実践とのバランスが必要である。

27



(4) 課題

(3) 書籍を探しに行くときの荷物管理

- 館内に書籍を探しに行く際に荷物は？

(4) 広報活動や学務担当部署との調整

- 拡大するのであれば、教務担当部署とも調整、広報も

(5) 日常的な座席利用率の高さ

- グローバル・コモンズ開設で多少の緩和を期待

28



(5) 施設利用を超えた教育支援へ

■ 問題意識

- 授業利用が増えれば目的達成？（教育との新しい関わりだとしても）
- では、何を事業展開するのか。我々の強みは何か。
- これらをどうつなげていくのか
施設、書籍・電子的資料、IT機器・ネットワーク
図書館スタッフ・TA、教員、関連部署
授業、学生

29



(5) 施設利用を超えた教育支援へ

■ ステークホルダー

- 学生
学習、知識やスキルの習得
卒業～キャリア形成
- 教員
教育、知識やスキルの伝達・習得を促す

※学生や教員にとっての「価値」とは何か

30

(5) 施設利用を超えた教育支援へ

■ 現在提供しているサービスメニュー

- 授業一コマでの「図書館活用法入門」
 - 図書館TAによる学習相談 (総、理) 2008～
 - 論文検索関連二講習 2011～
 - レポートの書き方講座 (総) 2010～
 - 論文の書き方/文献の読み方 プチゼミ (総) 2010～
 - プレゼン入門 話す基本技術 (総) 2011～
- いろいろ種類と回数を増加
- シラバス指定図書コーナー、コースリザーブ (総)
 - キャリア支援図書コーナー (総、理)

31

(5) 施設利用を超えた教育支援へ

■ 教育との距離の縮め方

- 商品化・事業化
- 関連部署との人的連携
情報活用基礎、講習会、新コモンズのグループインタビュー、パンキョー革命
→ 何名かの先生とは「顔の見える関係」ができてきた。
- 次は？
→ 接点を増やして、価値観や方向性の共有

32



(5) 施設利用を超えた教育支援へ

■ 教育との距離の縮め方

- グローバル・コモンズ も、一つの材料に
- 授業で必要とされる「サービスメニュー」の共同開発？
- 場所、書籍・電子資料、IT機器 の存在


※図書館事情のコンテンツではなく

(例)レポートの書き方講座（一コマ版）

ロジカルスピーキング、特定の授業向けの文献リスト…

×：OPACの検索の仕方（分かるでしょ/説明が必要なシステムなんて）

33



(6) まとめ

■ 発表概要

- ラーニング・コモンズについて
概念、海外事例、当館の事例
- 授業等での利用
利用ルールの整備、利用実績、図書館の場を選ぶ理由、実務的な対応、図書館以外の施設
- 施設利用を超えた教育支援へ

35